

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	町木のくぼの木のように地域に地域に根ざし、ゆったりとした生活が出来るように支援することを目的に運営理念が作られている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	運営理念、介護理念を記録室、ホーム玄関に掲示し、朝のショートミーティングで読み合わせをしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	毎月発行しているホームだよりで、ホームの様子や予定を報告し、又訪問者に適宜玄関の掲示を見ていただいている。運営推進委員会の場や地域ケア会議に参加しグループホームの現状を紹介してホームの行事への参加を呼びかけている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	入所者の散歩時、玄関先のポーチでのくつろいでいる時に、道行く方々と挨拶をかわしている。ホーム便りを近所にも配布している。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の清掃作業や社会福祉協議会での慰問への参加や金武町の福祉祭り、産業祭りの作品展、見学を実施。	○ 老人会や行政班の行事への参加を増やしたい。

沖縄県(グループホーム くばの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>入居者の親戚、友人などの訪問を歓迎し、運動会への参加も呼びかけ隣のデイサービスの利用者、家族も参加してもらいました。</p>	○	<p>隣設の介護支援事業所とも協力し認知症についての理解と介護についての相談など支援をしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の指導をいかし、改善に努めました。又施設長、スタッフ、管理者共に今回の自己評価を全員で行い現状を把握する事ができた。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会においてはホームの現況を報告し、緊急時の対応、地域の行事の情報を得たり、利用者の対応へのアドバイスを得ている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターとの連携を持ち、単身者で生活保護者の入居依頼へ対応し、管理者は地域ケア会議に参加し情報交換を行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域包括センター主催の講習会に参加し学習した。入居者が権利擁護を利用しており、担当との関わりを支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修への参加を勧め、日頃の介護の場面、記録においても管理者や、お互いで、注意し合い、利用者の尊厳を保つように心掛けている。</p>		

沖縄県(グループホーム くばの里)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時は家庭訪問を行い本人の生活状況を把握し、運営規定・重要事項説明書を説明し、出来るだけホームを見学してもらい、ホームでの生活を理解して頂いている。転居の際に本人、家族共に転居先への情報提供をおこなっている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見・苦情受付箱を玄関に設置し、苦情受付機関の連絡先を玄関に掲示してある。日頃の生活での表情や言動で気づく事を見逃さずことなく、朝のショートミーティングで検討し解決している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調の変化はその都度電話連絡し、日用品の補充は必用時連絡している。毎月の”くばの里だより”で入居者や職員の異動を知らせ、行事のスナップ写真を載せている。”くばの里だより”はホームページにも載せている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族、その他の訪問面会時必ず職員が対応し、さりげなく要望や、気にかけていることを聞くようにしている。又、直接話して下さる方もおられる。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月のスタッフミーティングで意見を出し合っている。管理者が対応できることはスタッフと調整して対処し、必要時は施設長へ報告して改善している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や、家族の要望に対応できるように可能な限りスタッフの勤務調整、管理者も平日以外も対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は出来るだけ少なくし、馴染みの関係を保てるように努めている。朝の集いでお互い自己紹介をし、ゲーム、レクを共に楽しむ。新職員は利用者や業務をある程度理解できるまでサポーターを付けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外の研修に積極的に参加を勧め、参加していないスタッフへはミーティングで伝達している。お互いで参考書の取り寄せ等便宜をはかっている。</p>	○	<p>新職員の研修参加を勧め、ホーム内での学習を定期的に行いたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会への加入、研修への参加、情報の交換をしている。又、グループホーム間の利用者交流会を実施している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間がとれるように業務調整を行い、気兼ねなく休憩がとれるように休憩室を備えてある。職員の誕生会を時間外に行い親睦を行い日頃のストレス軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の個性と特技が生かせるように役割、利用者担当をきめている。スタッフの勤務状況をプラス思考で対応するように努め、失敗しても原因を話し合い、次はうまく出来るように励ましている。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時ホームで他利用者の生活状況を紹介して入居申し込みを受け付け、その後家庭訪問を行い、在宅での生活状況を把握すると共に、本人の要望を聴いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>必要時は家庭訪問を行い、ゆっくり相談を受け、他利用者のホームでの生活の様子を見学出来るようにし可能な支援を説明している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談時、困っている事、必要としている支援を他のサービスに関するパンフレットなどで紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居初期は食事や就床時は傍に付き添い、朝の集いで他入居者と自己紹介し合い、安心して頂く様にしている。又、家族の面会時にも共に話し合うようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居時のアセスメントで本人の残存機能を把握しホームで可能な役割を持ち、他利用者との関わりももてるように交わる場を設定している。(例:お互いでレクのパートナーを組む。野菜のつくろい、お膳拭き等。)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会、外出は夜間を除き自由に対応し、本人の要求時可能な限り電話を代行でつないで話してもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会への参加、家族交流会、その他の行事への案内を行い、又面会が楽しく出来るように、場の雰囲気に配慮している。	○	年間行事計画を充実させご家族や地域の方に参加計画が容易に出来るようにしたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の出身地や思い出話に触れたり、ピクニックでふるさとに立ち寄りたりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	朝の集いで毎日ひとりひとり自己紹介をし、ゲームをしたり、夕食後はカラオケをしている。部屋で長時間一人になっておられるときは相性のよい方と一緒に訪室し声を掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療機関へ入院した時にはお見舞いに行き、転居された方を訪問したり、サービス終了後も安否を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の集いで希望を話し合い、生活リハビリへの参加も無理強いないで柔軟に行っている。睡眠、排泄支援は本人の意思に合わせ、毎日の記録も参考にして支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴等を聞き、入居後は昔話を讀んだり、懐メロを歌うことで思い出をよみがえらし、健康なころの活躍を把握すると共に自信を取り戻してもらうようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関わりの中で観察し、管理記録や個人記録をし、申し継ぎ、ミーティングで職員が情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の訴えや個人の観察記録とスタッフの情報、家族との面談で必要な支援、要望を受け支援計画に載せ、申し継ぎしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のスタッフミーティングで情報交換を行い、さらに体調の変化、身体機能の変化があるときは、毎朝のショートミーティングで検討し、家族との調整を行い支援計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援計画に基づき記録を充実させるように努めている。管理者もチェックし、お互いもアドバイスをし合い計画が適切であるか毎月のミーティングで見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得ながら入居者の生活全般を支援する事をスタッフ全員が理解し買い物や受診、散歩、理美容等の支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の地域民生委員と情報交換し、協力依頼している。近隣の保育所の慰問が定期的であり、教会からの訪問、図書館の利用をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	寝具の洗濯 ・福祉用具、補装具の紹介を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域ケア会議や、ケアマネ会議等で情報交換を行い、現在は単身で生活保護の方の権利擁護の利用に協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の健康管理の為、必要時は受診に同行し、ホームでの情報を説明したり、又注意事項を伺っている。		

沖縄県(グループホーム くばの里)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>事例が発生した場合は、以前に入居されていた方の対応を参考にし、家族と主治医と調整して事例に合ったマニュアルをつくる。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の場面でも利用者への言葉や介助も本人のプライドを傷つけないように配慮している。記録もお互いに注意し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の性格を把握する事により、理解し納得してもらえるように話し、柔軟に対応出来るように介護者個々の技量を生かし助けあっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日必要な健康チェックや食事、入浴等はある程度時間を設定し、本人の体調や気分によって時間や場所を変更している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣の際は本人が衣類を選んでいる。整髪は家族本人の希望を聞き、美容室や理髪店、ホーム内でスタッフによる整髪、を行っている。洗面、入浴後のスキンケアを行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の様子を見ながら雑談したり、今日メニューを確認し、個々の体力に合わせて配膳や下膳、を行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ・飲み物は各自の嗜好に合わせて用意し、家族の差し入れを毎日、おやつ時間や、夕方に与えたり、本人用買い置き飲み物を要求時に摂れるようにしている。	

沖縄県(グループホーム くばの里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄をチェックし日中は可能な限り綿パンツと尿とりパットを使用し本人のペースに合わせてトイレ誘導している。排便の確認記録により便秘の対策(食事・緩下剤)を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の入浴日はあるが本人の気分や必要に応じて回数、時間にこだわらず入浴の支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食堂の消灯時間は決められているが居間は利用者の就床に合わせて消灯し、テレビを見たり、介護者とお話などしている。部屋の明かりを個々の希望にあわせて調整しており、必要な方は室外からの明かりを遮断している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくり暦の担当、新聞とり、お膳拭き、体操の号令リードと可能な限り個々に合わせて担当していただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売の業者からパンや飲み物を購入する時に支払いをしたり、野外レクなどでおやつ購入の代金を、自分で支払を行う事もある。入居時に現金所持を試みた事もあるが、置忘れやなくすことへの不安で落ち着かなくなった事があり、常時現金を持つことはない。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩は希望時に出かけます。隣のデイサービスへ出かけたりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の野外レク時ふるさと訪問する事もあります。行楽地の季節の催し物へも参加しています。		

記入日:平成20年3月28日

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をすることは無いが、希望時はダイヤルをしたり、家族からの電話を取り次いだりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には居間や自室で面会していただきますが、お茶を出したり、時には一緒にレクに参加してもらいます。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束とは」を記録室に掲示してみんなが身体拘束が無いように意識して介護するようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず、夜間(PM8:00~AM7:00)施錠している。例外で状況により一時施錠する事がある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中常に介護者は利用者の所在を意識している。夜間は1時間置きに睡眠チェックをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物(洗剤・包丁・ハサミ等)の置き場所を確保し毎日2回点検している。各部屋安全確認をして、必要なものは出来るだけ置くようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット・事故報告書を記録し、ミーティングで対策を検討して再発防止につとめている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>体調の急変時、事故発生時の対応についての学習を定期的に行い、マニュアルと緊急連絡網を掲示している。</p>	
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の消防署により消火訓練・緊急避難訓練を行い避難誘導体制を掲示し学習している。</p>	
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>入居時や本人の体調の変化時に家族に対し予測されるリスク、を説明して理解と協力を得ている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日朝夕にバイタルチェックを行い、気分や顔色の変化を観察し異常に気づいたときは記録すると共に看護師に報告している。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方内容箋で効能・副作用や服薬方法をいつでも見れるようにファイルしてある。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎朝乳製品を配食している。排泄チェックにより排尿間隔、排便の有無を確認し朝のミーティングで対応を検討している。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時・毎食後口腔ケアを行い、義歯は毎晩洗浄剤で処理している。</p>	

沖縄県(グループホーム くばの里)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行うと共に、栄養士に献立表を見てもらい栄養バランスの指導を受けている。毎食後のお茶と10時・15時のおやつと水分補給を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は家族の協力を得て、毎年受け手洗い、うがいを習慣にして、トイレ後の手拭はタオルペーパーを使用している。関係機関からの研修に参加し、テキストやパンフレットを利用して学習している。	○	機会あるごとにスタッフが学習の機会を設け、ホーム内の物品も整備改良を継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は新鮮なものを購入するようにし、製造元や賞味期限のチェックを行い、冷蔵庫の中を毎日整理点検している。食器、調理器具の洗浄を念入りにし、乾燥機を使用している。	○	日常的に食品の点検・清潔に気をつけていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は通りに面しており、スロープと階段の出入り口があり、道行く人との挨拶も交わす事が出来る。近隣の子供たちにも声をかけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量、明かりの調節に配慮し、室温度計を参考にし調節している。庭に季節の野菜、花を植えている。居間では壁掛けや音楽・生け花で季節感を出すようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに廊下のソファや居間でお話したり、静かに座ってくつろぐ事ができる。		

沖縄県(グループホーム くばの里)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具を持ってこられたり、手工芸品・家族の写真を飾ったり、適切な用具を使用している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝換気し、臭いや、汚れに細心の注意をはらって対処している。個人の好みに合わせて室温調整を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁は手すりを設置して歩行を容易にし、車椅子の操作も容易に出来るスペースを確保し、障害物をなくしている。滑らないように床を拭き、ベッドは電動式で個々に合った高さに調整している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来るだけ自分で目的を果たせるように見守り、戸惑いや訴えがあるときには自尊心を傷つけないように支援するように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花や野菜を利用者と共に植え、ベランダでお茶を楽しんだりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム くばの里)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- \* グループホームくばの里は住宅街の真ん中に位置し、隣接のデイサービスとの交流が出来る。
- \* 利用者に安全で楽しく生活して頂くためにホーム内はスペースが広く移動が容易である。
- \* ホーム内外の環境整備・物品の補充には施設長・管理者・スタッフが一丸となって取り組んでいる。
- \* ホーム内だけで過ごすことが無いようにピクニックや野外レクを計画し、他のグループホームとの交流も積極的に行っている。
- \* 協力医療機関との連携で訪問診療(2名)を行っている。